

### 3 良心

夏休みも間近。窓ぎわのわたしの机の上には、強く日が当たってまぶしい。思わず目を細める。暑いなあ。このごろはまったくテストめだ。

きょうも二十五字漢字テストである。わたしは「染める」という一字だけがどうしても出てこず、この字をいちばん後回しにして、ほかの字を全部書いてから、また「染める」に時間の大部分を使った。

三番目の「そめる」まできて、わたしははっとした。「忘れたっ。思い出せ



ない。」下じきに、いろんな字を書いてみた。どれも「そめる」という感じの字ではない。「ちがうちがう、こんなんじやなかった。もつとすいっとした字だった。「三太郎おじさん」のいちばん最後のページ、「柿の青葉が照り返して、青いかやの中にでもいるように、ふたりの顔は青くそまって……。」と、ページのようすや、さし絵もはつきりと頭にうかんだ。最後の作者の名前まで。だけど、かんじんの「そまって」のところだけは、もやもやとなって見えない。はつきりえがいた絵の一か所に水てきを落としたように、そこだけがぼやけてしまっている。目をつぶって、頭の中の目でじいっとそこを見つめても出てこない。対話が始まるそのページの初めから、「あんまりよくないの。」「ううん。」と読んでいても、やっぱり、そこまできるとつまってしまふ。

「しかたがない、とばそう。」心の中で自分を元気づけるように言って、気がかりながらも先へ進んだ。「そめる」が分からなかったのも、その先も、つかかって出てこないのではないだろうか、不安になったが、「欲張る、奮い

たつ、収める——。」と、最後まですらすらと出てきてくれた。が、一ます空いたままの「そめる」の場所が、ひどく大きく見える。さっきの、いやなこわい、いらいらした気持ちになってきた。「よし、何がなんでも思い出してやるぞ。一度習った字だ。頭の中のどこかにあるはずだ。」

深こきゆうをして気持ちを落ち着け、前方の一点をぐつとにらみつけて考えた。そのかいがあって、全然見当のつかなかった「そめる」という字が、いや「そめる」という字の感じが、頭の中にうき上がってきたときはうれしかった。ういたりしずんだりしているその字を引き上げようと「もうちよつと、もうちよつと。今、力をゆるめたら、またしずんでしまふ。そら、もうちよつと、がんばれ、がんばれ。」と、いつそう力をこめて考えた。そのうちに、「今書いてみたら分かる。」という気が起こってきた。今のうちだ、書いてみよう——と、見つめていた一点から目をはなして、下を向こうとしたときだ。何かに心がそれたようだ。それは、おとなりの滝沢さんだ。もう、みんな書けてほつと

しているのか、テスト用紙を前にして、ほおづえをつき、片手で紙のはしをいじくっている。その、カサカサという音が気になる。そのしゅん間、わたしの目は、心電図を記録する機械が、心臓こころのこ動につれて大きくふれるように、ふいと滝沢さんの方を向いてしまったのだ。心のおくの、もつとおくの、何者かにあやつられたのではないだろうか。目をそらそうとする力と、見ようとする力の両方から、強く引かれてぐらついていた。いけない。思わずそのしゅん間に目をつぶった。が、もうおそかった。

苦勞してやつとさがし出した「染める」だが、満足した気持ちは起きない。分かった喜びどころか、分からなかったときの不安より、もつともつと強い、何かにおどされているような気持ちがおしよせてきて、「書くな、書くな。」という。急いで消した。いや、自分で思い出したんだから書いていい。また書いた。消したり書いたり、何度もくり返した。二つの心が、はげしくぶつかり合っていて、心の中で火花を散らすようだ。「神様、神様、どちらにしましょうか。」と

聞いてみた。書かないほうになった。二度目は言い方をかえ、「書く、書かない。」としてうらなった。また、書かないほうだ。天国のおじいちゃんも、にこにこして、「書かんほうがええなあ。」と言っているようだ。なんだか気持ち良かったかぶってきた。息苦しい。これが良心というものなのだろうか。お姉ちゃんたちのよく言っている、「良心が許さない。」とは、このことかなあ。「なまりがまわりのものにはがねと見られても、それは真の名誉めいよではない。」ということも読んだことがある。「よし書かずにいよう。」わたしは、ゴシゴシと、紙がざらざらになるほど力まかせに消した。まるで、心の中のもやもやまで消してしまうような力で――。消してしまって、ほっとしたときのすがすがしい気持ち。ちょうどその心は、雨が上がったあとの太陽のようだ。それは、苦しい短い時間であったが、これから先、わたしの良心が弱い心に打ち勝つ、ねうちのあんな長い長い時間をさずかったように思えた。

#### 4 友の肖像画しょうぞうが

ぼくと正一おやぎは幼なじみである。家が近かったせいもあり、毎日いっしょに学校に通った。学校から帰っても、近くの空き地でよく野球をしたものだ。

宿題をするのもいっしょ、遊ぶのもいっしょ。そんなぼくたちを見て、母は、「和也たちはほんとうに仲がいいのね。まるでふたごの兄弟のようね。」

と笑った。

「ぼくたち、大きくなっても、

ずっと友だちでいるんだ。」

ぼくは得意そうに答えたものだった。



# 4 良心

1-(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。  
(誠実・明朗)

## 1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

誠実・明朗とは、時や場に応じて変わるものでなく、どんな時でも人をあざむかず、自分を偽らず真心をもって明るく行動することである。

誠実は何よりも自分自身に対する誠実であって、他人がどう思うだろうか、いかに非難するだろうかではない。自分に対して恥じるところがないか、やましいところがないかが、問題である。明るい生活は、自分に対して常に誠実に行動することによって実現される。それには自分のあやまちを素直にみとめる態度が基盤になくはならないと考えられる。

〈子どもの実態について〉

六年生になると、日々の生活が、自己の良心に従って、「うそ、いつわり、がなく、常に明るく、しかも、まじめな態度でありたいとだれもが考えている。「うそ、いつわり、がどのようなものであり、また、他へ及ぼす影響がどんなであるかは、子ども自身が自覚しているということが多い。だが、実際の場では、自己の利

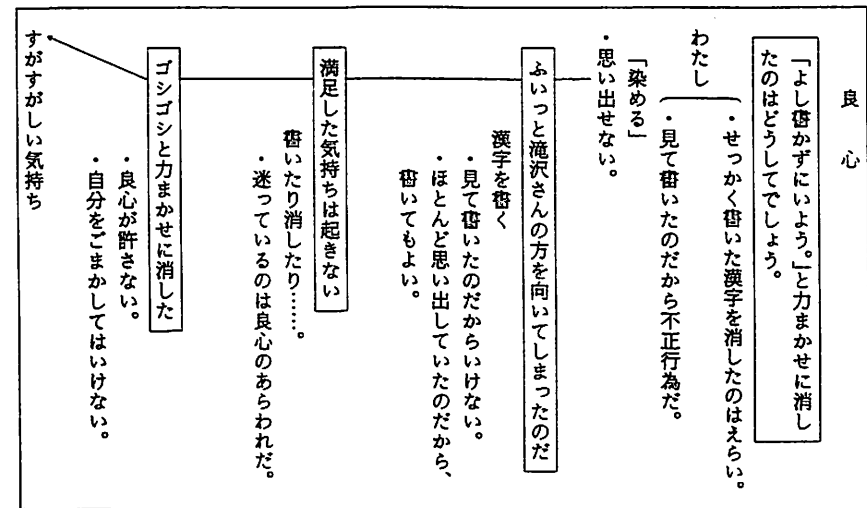
害や損得を考えたり、相手によっては、行動を変えてしまったりして、心ならずも不誠実と迎合してしまうことが少なくない。

〈資料について〉

主人公はふいっと、となりの滝沢さんの方を向いてしまった。心の中では、となりの人の漢字を見たいという欲望がはたらいたことを感じとっている。他の字は自分の力で書くことができたし、一生懸命努力して満足している。それに比べると、この「染める」という字は、カンニングしたのではないけれども、カンニングしたいという気持ちで横を向いたことも事実である。主人公は、自分の行為を不正な行為と感じとり、それを取り消そうと努力してとうとう漢字を消してしまった。良心に従うことの大切さ、自分に対する厳しい態度について深くみつめさせたい。

## 2 ねらい

偽りやごまかしの行為をせず、いつも自分の良心の声に従って、誠実な生き方をしようとする態度を養う。



## 3 展開

学 習 活 動	支援上の留意点
<p>(1) 「良心」とはどういうものか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ みなさんは「良心」とはどういうものだと思いますか。</li> </ul> <p>(2) 資料を読んで、主人公の行為について話し合う。</p> <p>① 主人公について、感じたことを話してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公は、迷ったあげくせっかく書いた字を、消してしまったのはとてもえらい。</li> <li>・でも、人を見てしまったということが、自分にも分かっているのに、書こうとしたのはいけない。</li> <li>・その時は、もう、ほとんど思い出していたので、となりを見たとしても不正行為とはいえない。</li> </ul> <p>■ 「よし書かずにいよう。」と力まかせに消したのは、どうしてでしょう。</p> <p>② 主人公は忘れていた字を書くことができたのですが、その時の主人公の行為をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公は、とにかくとなりを見て思い出すことができたのだから不正行為になる。</li> <li>・ほとんど自分の力で思い出していたのだから、せっかく書いた字を消すことはない。</li> </ul> <p>③ 書いてしまったあと、満足した気持ちはおきないとありますが、どうしてでしょう。そして、書いて消したり迷っていますが、こんな主人公についてどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・となりを見たため、はっきり思い出すことができたという自分を自分が知っているので、良心がとがめたのだ。</li> <li>・ほとんど自分で思い出していたとしても、横を見てしまったので、そのことで心がとがめたのだ。これが主人公の偉い点だ。</li> </ul> <p>④ 主人公は、せっかく書いた字を、どのような考えから消してしまったのでしょうか。そんな主人公をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心の中にある良心を自覚した。だれも見なくても自分を偽るのは良心が許さないと考えた。こんな主人公をととてもすばらしいと思う。</li> <li>・たった一字を見て書くだけなのに、こんなに深く考えるとは、本当にまじめな子だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</li> <li>・感想を発表し、主人公の生き方のかばう意見と批判する意見に分け、お互いの意見に根拠がもてるようにする。</li> <li>・「消さなくてもよい。」とかばう意見と「不正である。」と批判する意見を引き出し、主人公の考え方や行為を深く見つめられるようにする。</li> <li>・人にわからない小さな不正も、自分をごまかすことができない主人公の心の中を考えられるようにする。</li> <li>・迷ったあげく、遂に消してしまった主人公の誠実な行為のりっぱさを捉えられるようにする。</li> <li>・良心に従うことの大切さに気づき、自分の生活を振り返ることができるようにする。</li> <li>・教師の体験談を聞くことにより、実践への意欲が高められるようにする。</li> </ul>
<p>(3) 自分たちの生活を振り返って考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 良心に従って行動できたことはありますか。</li> <li>・わたしも、良心にはじない行為をして、すがすがしい気持ちになった。</li> </ul> <p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	